

## 「東京の雪(5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

その後も子どもたちは、次々と雪の結晶を発見していった。東京では少し珍しいものも含まれていた。



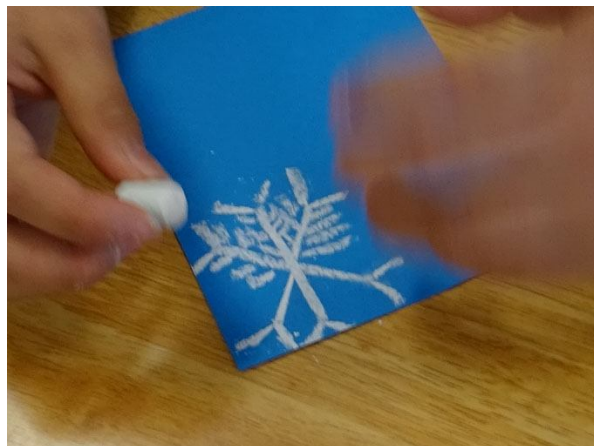
これは「扇型六花」と呼ばれる結晶。寒い地方では普通に見られるが、東京では珍しい。今回も、大勢で観察して、1個しか見つからなかった。



更に驚いたのがこの結晶。「六角柱結晶」と「角板結晶」が組み合わさった「つづみ型」と呼ばれる結晶だ。これも、寒い地方では普通に見られるが、東京の



雪ではなかなか見つからない。左写真は、北軽井沢の雪に見られた多数の「つづみ型」の結晶である。



「雪だるま」になりかけた子どもたちを教室に戻し、青の画用紙と、短くなった白のチョークを配布した。直前に観察した雪の結晶を、印象が薄れないうちにスケッチさせる為だ。



この日は、6時間目が終わった直後に、すぐに下校させた。それでも遠くから電車で通う子どもの中には、電車が混雑し、しかもノロノロ運転で、帰宅までに相当時間がかかったと、日記に書いていた者もいた。



雪が積もると、普段見ている景色も一変する。夕方の大学構内は、まるで金沢の大学のようにだった。